

海外ゲスト（法務省パート）



氏名：Shamsul Nizam bin Khalil
役職：マレーシア国内取引・生活費省 取締担当副総局長

シャムスル・ニザム・ビン・ハリル氏は、1992年にマレーシア政府での勤務を開始し、以来、国内取引省において30年以上にわたる豊富なキャリアを築いてきた。これまで、知的財産権調査、現場業務、消費者保護など、主要部門で数々の上級執行職を歴任してきた。執行官から現在に至るまで着実に昇進を重ね、現在は、クアラルンプール連邦直轄区、ケタ州、ペラ州など複数の州で勤務し、不当利得防止、著作権、商取引遵守を対象とする複数のハイレベルな執行タスクフォースを率いてきた。現在は、国内取引・生活費省の執行局において戦略的な役割を担い、国家政策の執行及び業務運営のリーダーシップに貢献している。



氏名：Kayrel V. Padilla
役職：フィリピン税関 法務官(Attorney III)

ケイレル・V・パディラ氏は、2018年に司法試験に合格し、2019年にフィリピン税関でキャリアをスタートさせた。現在は、税関局において、法務局起訴・訴訟課の弁護士や、情報部副部長の首席補佐官など、多様な役割を務めている。これまでに、複雑な案件の処理、法的意見書の作成、上級幹部への戦略的な助言などを行ってきた。また、暫定承認経済事業者(AEO)室ポストバリデーションユニットの責任者として、関係者と緊密に連携し、関税規制及び国際基準の遵守を確保してきた。このリーダーシップ経験を通じ、サプライチェーン・セキュリティと貿易円滑化に関する深い知見を得るとともに、多様なチームを調整・管理する能力を磨いている。さらに、韓国税関庁や米国税関・国境警備局（CBP）などが実施する税関行政及び貿易安全保障に関する研修を数多く受講している。



氏名：Vignesh Vaerhn
役職：アレン・アンド・グリードヒル法律事務所 カウンセル、弁護士

ヴィグネシュ・バーン氏は2005年にアレン・アンド・グリードヒル法律事務所に入所し、2011年から2024年12月31日までパートナーを務めていた。パートナー職を退いた現在も、同事務所でカウンセラーとして業務を継続している。専門分野は、知的財産・情報技術に関する訴訟及び紛争を含む、あらゆる知的財産の分野に及んでいる。特に、著作権紛争をはじめ、知的財産権侵害、取消し、異議申立て、権利主張に関する訴訟において、民事及び刑事の両分野にわたって豊富な経験を有している。また、ドメイン名や商号の回復に関するアドバイスや手続も数多く成功に導いている。さらに、企業秘密や機密情報の保護、シンガポールにおける医薬品のライセンスに関する規制問題について助言を行っており、特許関連制度や医薬品に関する法的紛争にも携わってきた。知的財産権の保護とポートフォリオ管理、とりわけ知的財産活用戦略に関する助言も行っており、知的財産監査・デューデリジェンスや商業化に伴う課題にも対応している。多様な文化的背景を持ち、日本語と中国語(北京語)の読み書き、会話が可能である。また、シンガポールドメイン名紛争解決政策委員会の構成員も務めている。